



さかうえ るりちゃん  
(6さい)

4さいのときからおうちでピアノのれんしゅうをしているの。ピアノはたのしいよ。ピアニストになっていろいろなきょくをひきたいな。



摩周丘幼稚園のおともだち



はら しおんくん  
(5さい)

ファイターズに はいって だいすきな いなばせん しゅ みたいな やきゅう せんしゅに なりたいんだ。いまは おとうさんと やきゅうを しているよ。

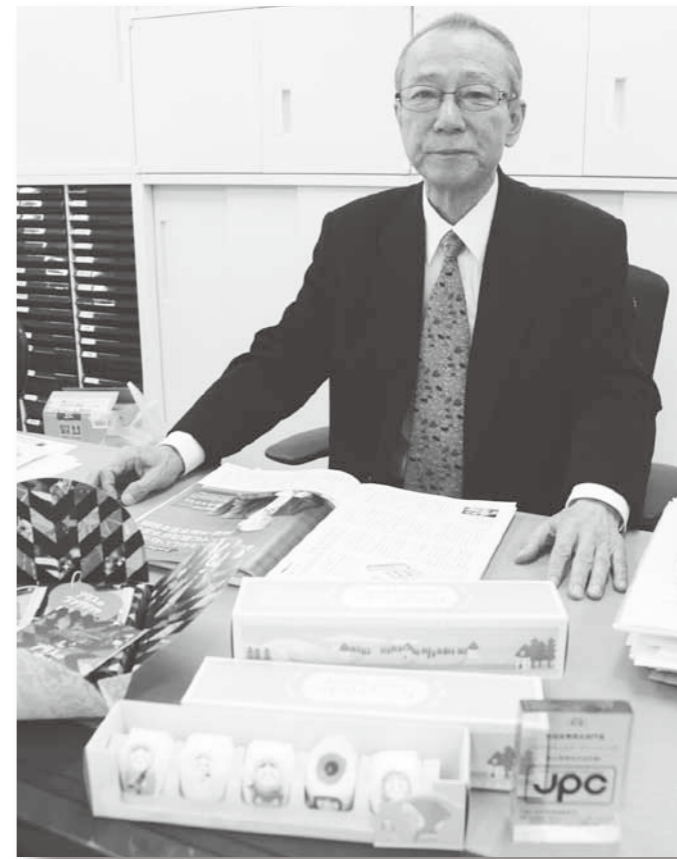
がんばっているあなたがすき

シリーズ・ひと

心のこもったお菓子作りを

第51回ジャパンパッケージングコンペティションで  
地域産業商品部門賞を受賞した長谷製菓の代表取締役

長谷 寿人さん(61歳・摩周2)



国内で販売されている商品の、包装(パッケージ)デザインなどの優秀性を競うジャパンパッケージングコンペティション(日本印刷産業連合会主催)の「Hokkaido マトリョーシカ」です。同社の長谷社長にお話を伺いました。

「このお菓子は、創業50周年を迎えた2010年に販売したもので、試作を重ねるなど味を吟味したのはもちろん、パッケージにもこだわりました。コンペティションでの入賞は、ほとんどが国内大手企業ばかりという中、私たちの商品を選んでいただいたことをうれしく思うとともに、恐縮もしています。」

審査では「マトリョーシカが北海道のおススメを紹介するというコンセプトで、ストーリー性を展開。季節などによって持っているものが変わる遊び心をデザインした」と評価されたそうです。

マトリョーシカとはロシアの入れ子人形で、近年若い女性などに人気があることから、パッケージのデザインに選びました。北海道のお土産ということで、お菓子の材料もチーズ

やハスカップなど北海道ならではの素材を用い、パッケージのマトリョーシカが手にしているものもトウモロコシやラベンダーなど、北海道にちなんだものばかり。マトリョーシカは25種類あり、箱を開けてみるまで、どの絵柄のマトリョーシカが入っているか分からないというのも楽しいと思います。地域産業商品部門賞の審査においては、満場一致でマトリョーシカを選んでいただいたそうので、大変光栄に思っています。

受賞を受けての感想と、今後の抱負についてお聞かせください。

「学校を卒業してすぐに会社に入り、1997年には先代から社長業を引き継いで、お菓子作り一筋にまい進してきました。私たちが作っているのは観光土産です。箱を開けた方ががっかりしないように、旅の思い出を壊さないように、心のこもったお菓子作りを行ってききました。今回、このような大きな賞をいただけて、もっと頑張っていかなければならないと気を引き締めています。マトリョーシカはシリーズ化を考えているところです。もっとたくさんの方に親しんでいただけたらうれしいです。」



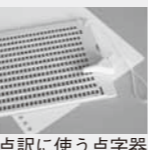
弟子屈点訳の会  
代表・館 昭子さん  
会員・5人



弟子屈点訳の会の皆さん  
前列右端が代表の館さん

皆さんは「点字」をご存じですか。点字は、視覚障害のある方が触って読む文字で、縦に3列の「6つの点」からなっています。エレベーターの乗降ボタンや、家庭では洗濯機の操作ボタンなど、結構身近にあるのですが、意識したことはいまありません。

点字を学びながら、ボランティア活動を行っているのが「弟子屈点訳の会」の皆さんです。



点訳に使う点字器

1988年に弟子屈高校で一般の方向けの講座があり、そのときに「初めての点訳」という講座を受講した方が、講座終了後も勉強を続けたいとサークルをつくりました。その後、メンバーの転勤などを経て、現在の形になったのが2003年。毎週木曜日の10時から、福祉センターで活動しています。毎月、広報でしかが「カメラスケッチ」も点訳して下さっているそう。現在は、指圧師の国家試験を目指す方から国家試験問題集の点訳を依頼され、奮闘中です。会員の皆さんは「専門的な医療用語を点訳するのに苦労しています」と話していました。点字器で一つ一つ点を打つ作業は集中力があるそうですが、和気あいあとしたサークルならではの、合間合間のおしゃべりを楽しみながら行っているそうです。

ほかに、弟子屈高校のボランティア部での点訳の指導や、小学校での点字体験講座なども行っています。

点字の魅力については「誰かの役に立てることがうれしい」と、皆さん話していました。



昨年、美留和小学校で行った点字体験講座

新規会員も随時募集だそうです。初めての方、大歓迎だそうですので、興味のある方は館さん ☎482-3164 まで。